

会議の名称	令和7年度第1回茅野市地域創生総合戦略有識者会議		
開催日時	令和7年11月17日(月) 18時30分~20時00分		
開催場所	茅野市役所 議会棟 大会議室		
出席者	※委員：高村委員、両角委員、金田委員、小山委員、小泉委員、村上委員、行田委員、武井委員、座間委員、矢部委員 ※市側：今井市長、柿澤副市長、熊谷地域創生政策監、森井総務部長、小池企画部長、北澤市民環境部長、守屋健康福祉部長、両角産業経済部長、黒澤都市建設部長、五味こども部長、小池生涯学習部長、牛山DX推進課長、久保山地域創生課長、大蔵企画課長、前島企画係長、三井企画係主査		
欠席者	百瀬委員、米川委員、宮沢委員、小平委員、矢崎委員、矢島委員、石井委員、石川委員、濱田委員、五味委員		
公開・非公開の別	公開	傍聴者の数	1人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
事務局	○議事 1 開会 2 あいさつ 3 委嘱書交付 4 会議事項 (1) 第2次茅野市地域創生総合戦略の進行管理について 資料1 (2) 地域再生計画に係る令和6年度分の実績報告について ① デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）対象事業 資料2 ② 企業版ふるさと納税 資料3 5 その他 (1) 有識者会議と総合計画審議会の統合について 6 閉会 ○議事録 1 開会 (18:30) これから会議を開始する。始めに、本日出席している委員を紹介する。 =委員の紹介= 会議に入る前に事務局から本会議の趣旨を説明する。本会議は、茅野市の地域創生に関する方向性を示す茅野市地域創生総合戦略について、有識者から意見を聴取し、進行管理の見直しを行うことを目的として設置された。茅野市では、人口減少や少子高齢化が進む中、将来にわたって活力ある地域を維持するため、平成27年度に第1次総合戦略を策定し、現在は第2次総合戦略において各施策を進めている。本会議では、これまでの取組状況や数値目標の進捗を検証するとともに、今後の施策の方向性や改善点などについて、幅広い立場からの意見を聴取したい。いただいた意見は、地域創生に関する施策へ反映したいと考えている。本日は手元の資料に沿って会議を進める。会議時間は1時間を目安とする。		

続いて、今井市長から挨拶をいただく。

市長

2 あいさつ

皆さんこんばんは。多忙な中、こうしてお集まりいただき、誠に感謝する。また、日頃から茅野市の様々な活動に対し、ご理解とご協力をいただいていることに改めて感謝を申し上げる。

さて、茅野市では、令和2年度から「若者に選ばれるまち」を基本理念に掲げ、地域創生の取り組みを進めてきた。今年4月には計画の一部を見直し、計画期間を令和10年度まで延長した。これにより、今年度は6年目の取り組みとなっている。

「若者に選ばれるまち」という言葉については、当初、市民から「若者だけを対象にしているのか」といった意見をいただくことがあった。しかしながら、この戦略の本来の目的は、若者に選ばれることで地域に活気が生まれ、結果としてすべての世代の暮らしや幸せにつながっていくという循環型の地域づくりにある。近年では、この理念が市民にも広がり、共感と理解をいただけるようになってきたことを、大変心強く感じている。

遡れば、地域創生総合戦略は、第1次を平成27年度に策定し、当時の基本目標である「魅力ある仕事をつくる」から、働く実験室をテーマにコワーキングスペース「ワークラボ八ヶ岳」を内閣府の交付金を積極活用して設置した。現在は、2期目の指定管理者となっている。オフィス区画は設立時から常に満杯で、順調かつ活発な運営がなされているところである。このトレンドは現在進められているベルビア1階の交流拠点構想につながるものである。

また、同じく当時の基本目標である、「楽しいまちをつくる」から、茅野市版DMOである茅野市観光まちづくり推進機構を発足し、着地型商品造成の開発により観光入込客の増加に寄与するとともに、コロナ禍においては、観光庁の補助金を活用し、宿泊施設等のリニューアルを推進してきた。こうした取組は、現在のレイクリゾート構想や環八ヶ岳連携推進へと広がりを見せている。

第2次では、未来都市茅野の構築を横断的政策として、デジタル社会に向けたチャレンジを進め、AI乗り合いオンデマンド交通「のらざあ」をはじめとした新たな地域公共交通を構築し、内閣府のデジタル田園健康特区にも指定され、移動と医療・福祉とを組み合わせた取組を進めているところである。

公立諏訪東京理科大学とも産学公連携を進め、スワリカブランド創造事業を複数年実施し、企業連携と知財ストックが図られ、近年では、大学発ベンチャーが立ち上がってきている状況となっている。

また、最近は特に若者の活躍が目覚ましく、茅野市に元気を与えていただこうようになった。農業や商業、観光業などで若い人の主体的な取組が進められ、こうした取組は新聞等でも大きく報道されるようになってきている。

この間の成果は、まさに「交流」をテーマとする第6次茅野市総合計画の方向性と重なり合い、地域の未来を支える確かな力となっているものである。これらの成果は、茅野市らしい取り組みが「交流拠点」としての役割を着実に高め、地域内外から評価されつつあることの表れであると考えている。

今年度の改訂では、出産・子育て支援の指標を合計特殊出生率から「年間出生数300人」という、より具体的でわかりやすい目標に見直しを行った。

また、デジタル田園都市国家構想交付金や企業版ふるさと納税などの財源

	<p>を活用した取組も進み、地域の活力を支える基盤が着実に整ってきている。本日は、これまでの取り組みの進捗を報告するとともに、交流を軸にした今後の方向性について、皆さまから率直かつ建設的な意見をいただきたい。市民の皆さまの暮らしをより良くし、未来に希望を持てるまちをつくっていくために、引き続きお力添えをお願いしたい。</p>
事務局	<p>3 委嘱書交付</p> <p>4 会議事項</p> <p>(1) 第2次茅野市地域創生総合戦略の進行管理について 資料1 =事務局が説明=</p> <p>(2) 地域再生計画に係る令和6年度分の実績報告について</p> <ul style="list-style-type: none"> ① デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ）対象事業 資料2 ② 企業版ふるさと納税 資料3 =事務局が説明=
市長	質問や意見がある場合は、挙手をして発言をお願いする。
委員	資料1の公立諏訪東京理科大学のところだが、令和2年の11人、令和3年が10人だったのが、令和4年から増えたのか、変わってないのか、微妙な数字である。市内就業者がなかなか増えないという背景があるが、これに対する対策を講ずる予定はあるか。
事務局	公立諏訪東京理科大学の卒業生が市内で就職し、移住定住につながるような取組として、就職や創業した際に奨励金を交付する取組をしている。さらに、引き続き5年間勤務した場合にも追加で奨励金を交付する。また、市内や諏訪市にある企業などと連携協定を結んでおり、卒業後にはそういった企業への就職の道があるという点も、公立諏訪東京理科大学の魅力の一つだと考えている。ただ、現状では委員が言った通り、数値としてはあまり成果が出ていない状況だと思う。今後は、そういった取組によって、さらなる数字の上昇を目指していきたいと考えている。
委員 事務局	他の大学の事例などは参考にしているのか。 公立諏訪東京理科大学が6市町村の大学ということで、茅野市に限定することもないため、指標自体を変えていく予定である。今説明した奨励金については、大学の組合で実施しているものである。茅野市独自としては、商工課の産業振興プラザが大学へ出向いて、実際企業見学を行うなどしている。公立大学自体、特に理系の公立大学自体は傾向的に少ないため、いくつかの事例を確認しながら取組を進めているところである。委員の方で参考になる事例をご存じであれば教えてほしい。
委員	今、静岡の工科大学で手伝いをしているが、およそ8割は地元で就職している。理工系の大学である。公立と私立の違いがあるので、茅野市が財政的に厳しい中で税金を投入して就職者数が少なくなるようであれば本末転倒かとは思う。一度真剣に考えないと、学生の地元就職が増えていくことはないと思う。抜本的な対策を考えるタイミングだと思う。
市長	諏訪東京理科大学の場合は、公立化され、非常にレベルが上がった。その結果、逆に地元に就職する人が減ったということはある。今、理科大に入学し

委員
市長

ている学生は、静岡県や愛知県からの学生が非常に増えている。やはり今おっしゃられたように、製造業が盛んな地域のため、実家がそういった関係の会社をやっているとか、あるいは、地元の大手メーカーに就職したいとか、そういう形で、また自分の出身地に戻っていく学生が増えているのが現状である。ただ、茅野市に限定するとこのような数字になってしまふのだが、諏訪 6 市町村という見方をすれば、もう少し違った結果になる。昨年はエプソンに 13 名が入社している。このことから、確実に地元の企業に就職する人は増えてきていると市としては見ている。これから、理科大の学長と理事長が来年度から変わるが、今度の理事長はエプソンの OB の方が務め、学長も信州大学の前の副学長に来てもらう体制をとっている。市としては、まず諏訪圏域で就職者数の増加を目指すが、できれば長野県内で就職してもらいたいという形で考えているところである。

承知した。

その他、何かあるか。よろしいか。なければ、次の方に進ませていただく。地域再生計画に係る令和 6 年度分の実績報告について説明する。

=事務局が説明=

委員

一点、気になることがある。ワークラボハケ岳を立ち上げ、初年度の指定管理者を務めた経験と感想から言わせていただく。今度のベルビアの 1 階の事業スペースは、現在のワークラボハケ岳の 600 m²から 2,000 m²の増加になるかと思う。今の指定管理者から聞いたが、テナントの問い合わせは、年間 100 件から 200 件くらいある。実は、当初は市の担当もテナントの営業を一生懸命行って、それでたくさん売れて、テナントデザインということを行った。ちゃんとコンセプトを決めて作っていく必要が、実はある。それがあまり見えてこないところが心配である。

私の仕事柄、オフィス事務所をやるという時に、最初に閑古鳥が鳴くとその後もう立ち上がりがない。最初の勝負に負けて、追々やっていこうなんてことを考えていると、絶対に商業施設もオフィスも閑古鳥が鳴いて、それからしばらく引きずるという状態になる。最初の時点で満室、せめて 8 割は入っていると、その後加速度的に、今のワークラボのように、年間 150 件はないが、トレンドができる。この辺はまた、個別に、戦略会議のようなものを行わないと、来年オープンするとなると間に合わないのではということが私の経験者としての感想である。

また、のらざあやデジ田と抱き合いで、PR を行っていく。これは SNS で行ってもあまり効果はない。口コミ作戦というか、テナントを呼ぶのは SNS ではなく、「足で稼ぐ」というところがある。事業者任せにせず、茅野市総力、官民で行っていく方が良い。大学にも協力してもらう。それから、地元や商工会議所の皆さんにも協力してもらう。市役所、この有識者会議の委員の皆さんにも協力してもらう。2,000 m²埋まるか埋まらないかで、ここにある目標値も相当変わるとと思う。真剣に準備した方が良い。

同時に、ふるさと納税についても、ここに移すよう企業に声を掛ける際に、オフィスは借りられないが、備品はふるさと納税で買えるなど、県外・市外の企業がここに進出する際にふるさと納税が使えるようなこともメニューに入れて、進出しやすくてはどうか。パソコンや機材など、ここに進出する際に借りられることを PR に込めたら、周辺の市町村から誘致することさら可能になる。このような戦略も大至急練った方が良いと思う。

事務局	このようなことに取り組むと、資料にある関係人口や「若者に選ばれるまち」、八ヶ岳ファンの目標値も数字を上げられると思う。検討してほしい。ベルビアの1階の部分については交流拠点のようなイメージで進めており、すべてがビジネスオフィスというわけではなく、中に交流に関わるスペースのようなものを設ける構想でいる。テナントビジネスというところは行政は不得手であるので、幅広い方々のご意見をいただくことが重要と考えている。またご助言をいただけると有難いので、よろしくお願ひする。
市長	おっしゃる通りだと思っている。ベルビア1階については、どうしても今構想の段階で、これからどのようにやっていくかというところである。行政がやっている仕事なので、民間のようにスムーズにはいかないというか、少し手間がかかっている。その部分で、大きなざっくりとしたイメージは、いわゆるビジネスゾーンとリビングゾーンがあって、そのリビングゾーンの部分では、世代間の交流のようなものもできる、そんな場所になればいいなとイメージをざっくり持っている。今、そういったところを若手を中心に視察に行ったりしているが、おっしゃる通り、やかたはおしゃれに作っても、そこにきっと人が入ってもらえるかが確かに心配である。これからその辺のところをプロジェクトチームを立ち上げるなどして考えていきたい。またご提案などあればよろしくお願ひする。
委員	都内から移って来る決定的な理由は託児所である。起業創業、女性の支援を考えた時に、なんとかベルビアの中に子どもを預けられる機能を付けられると、一気にテナントと活性化が進むと思う。事業所を貸している立場からすると、ここはもう運命の分かれ道だと思ったぐらいである。都内で営業するとした場合、圧倒的にものを言うところであるため、早急に検討してもらえると嬉しい。
市長	20数年間続いたパートナーシップのまちづくりの象徴的なものがベルビアの中にある。我々も委員がおっしゃったことをずっと考えていた。何とか0123広場で一時預かりはできないかと打診してきた。しかし、0123広場を作った方々から「茅野市の子育ては3歳までは親が見る、が基本である。親と一緒になければいけない」という形で、納得していただけない状況がずっと続いている。このため、そこはやはり現役世代の方々などからご意見いただけだと、我々としても進めやすくなると思っている。
委員	作った側の立場であるが、3歳までは親が見るなんてことは一言も言っていない。ただ、託児と自由に行って遊べる場所というのは別だと思う。0123広場を託児所にしてしまうと、茅野市は、今のシーズンから春までは、お母さんと子供は行く場所がなくなってしまう。どこに安心して遊ぶことができる公園のような施設を整備するかということで、そのために0123広場があるのである。
	託児所は作れば良いと思う。多くの企業が企業内の託児所を作ったりしているのと同じように、ベルビアの中に作れば良いと思う。しかし、託児所と0123広場は機能が異なるのではないかと思う。つまり、責任を持って預かるところと、遊ぶ場所、これらを混同して取り扱うことに無理があるのでという気がする。
	それから、ベルビアに0123広場があるということは非常に評判が良いと思っている。茅野市が子育てを大事にしているという代表的な、シンボル的な施設になっている。実際に昨年度の0123広場の新規登録者数は、市内では323人であったが、市外が1,393人である。市内のほとんどの人が登録してくれており、市外の人はその数倍の人数が登録して利用し、茅野市は良いと

委員	<p>ころだと思っていただいている。それを壊すような方向に行くのではなく、どのようにしたら発展できるのかという方へ発想すべきだと思う。</p> <p>とてもよく分かるが、まちづくりやまちの活性化を考える視点からは、駅前の一一番良いところに0123広場があるということは、経済的合理性があるだろうか。ほとんどの人が車で来ており、長時間滞在できるということであれば、あの場所にある必要はないのではないか。もう少し、車で来られて便利な場所に移転先を考える、または、機能の一部を分けて考える方が、まちの発展にはつながるのではないか。</p>
委員	<p>0123広場を作った際、矢崎前々市長に、米沢保育園がちょうど移転した時だったので、その後や、みどりヶ丘保育園の後を貸してもらえば我々が運営するという提案をした。ただ、当時の市長は、市民全員が使いやすいということであの場所を選んだということだった。私もあの場所にからならずしもこだわる必要はないと思っている。現在、市内の様々な行政施設が空き始めているということから言えば、あの機能をもっと違う場所へ移して、安心して遊べる場所を作れば良い。費用対効果の観点から、まちをにぎやかにするにはどうすれば良いか、あの場所においた方が世代間交流が広がりやすいということであればそれで良いし、もっと違う場所でこども達が庭もあるようなところで、公共施設の空いたところでやつたらどうだろうかという話は、随分議論できる話だと思っている。</p>
市長	<p>当時は、岡島が撤退して、その跡地をどうするかが大きなテーマであった。それで、あの場所に公共施設を入れたという流れだった。それから、我々が0123広場に「こうしてもらえないか」とお願いしていることは、託児所ではなく、一時預かりをしてくれないかということである。一時預かりができると、お母さんがそこに用事があって来た際に、1時間なり2時間なり、買い物の間だけ預けられるのではないか、ということでお願いをしてきたのだが、それも断られている状況である。託児所を作つてほしいとは言っていない。やはり、当初の基本理念にこだわるばかりに、何も議論ができていないのがここ数年の状況である。そこは何とか、もう少しみんなで議論して考へる必要があると思っている。</p>
委員	<p>一時預かりであっても、0123広場とは別にした方が良いと思う。0123広場の雰囲気というか、私も利用していた時は、移住してきたお母さんたちも来ており、ママ友もいないというところからママ友もできて、一緒に子育ての相談をしたり、悩み事を聞き合つたりというイメージが経験上ある。雰囲気に、一時預かりは別にした方が良いとは感じる。</p>
市長	<p>この議論は一度もしたことがなかったが、したかった。他の委員の意見はいかがか。</p>
委員	<p>なぜ、一時預かりがいけないのかが私の中で疑問ではあるが、0123広場で一時預かりがどうなのかということはあると思う。ただ、ベルビアに一時預かりがあつたら便利だとも思う。一時預かりは、最近はとても幅広く考えられている。歯医者に行く、美容院に行く、1時間休憩をとりたい、という時にも利用できる。0123広場の、出来上がったスタイルに執着しないということも一つの発想ではないか。0123広場は、外から来ても、観光客も使いやすい、とても良い場所といった出来上がったスタイルがある。その固定概念に、一度新しい視点を持つことも大事だと思う。これから0123広場が発展していくためにも色々な意見を今入れる時なのだと思った。一時預かりは賛成であるが、0123広場と場所は分けてもらいたい。</p>
副市長	<p>茅野市の公共施設は、特定の目的を持った人たちが特定の目的のために公</p>

	<p>共施設を利用する。一つ一つを性格を分けたような、ごちゃまぜではない形で公共施設ができていて、この点が非常に課題になっている。その施設を利用する人たちは、違う目的を持った人たちと交流がないままになっている。今市が目指しているところは、ベルビアもそうであるが、様々な人たちがごちゃまぜになって関係を作っていくことがこれから地域を維持していく上で大事ではないかと思っている。そのような意味で、0123 広場も子育てに関わる様々は人たちが利用することによって、今までにはなかった関係性ができる可能性があるのではないかと考えている。</p>
委員	<p>0123 広場は以前はより幅広い層の人が利用できたが、事故の危険性があった。例えば、4~5 歳の子どもたちがボール遊びをする中で赤ちゃんたちが遊んでおり、衝突の危険があった。そのため、赤ちゃんたちが母親と共に安心して過ごせる場所として、年齢制限が設けられた。障害のある子どもの場合はずっと見てくれているので問題はないが、元気な 5 歳、6 歳の子どもたちが一緒に走り回っていると、小さい子どもたちが怖がって安心して遊べなかつたり、事故が起こる可能性があつたりする現実から、利用者を分けています。</p> <p>一時預かりや託児については、会議室のようなスペースがあるため、そこを使うことの話はされたことがあった。エリアとして分ければ、保育士もいることから、合理的な運用を検討することはできると思う。</p> <p>しかし、先程委員が述べたように、仕事中安心して預けられ、休憩時間などに親が授乳に来られるような、きちんとした託児所を作ることを考えた方が、非常に高いアピール効果が期待できると考える。</p>
委員	<p>ワークラボを作ったのは 9 年前であるが、それ以前から考えると、女性の就業率や専業主婦の比率は、茅野市でも大きく変化していると考えられる。働く形式もテレワークができるようになった。そうすると、「若者に選ばれるまち」の本質である茅野市に戻ってきて創業しようという人を一気に増やすと考へた時には、営業のツールと同様に、レストランがあるか、歯医者があるか、薬局があるか。それだけのものが一気に備わると爆発的に活性化でき、若者を茅野市に呼ぶことができるということにオフィス業に携わるプロとして自信がある。本当に若い、10 代、20 代、例えば清陵高校で頑張っている女の子が卒業後にこの場所で創業しようと考えた時、ママと別れたくないという状態の子どもに「ママは下の階にいるから」と言って預けることができる。その時の子どもの心理的な安心感を説明したら、茅野市でスタートアップしようという人がどっと増えると思う。今は総理大臣も財務大臣も女性になっている時代である。あのような女性たちがどんどん茅野市に来て、イニシアティブをとってもらえるような形を目指すためには、具体的にどのように実現するかを考える必要がある。当然今までの形を変えたくないという気持ちは分かるが、そろそろ変えるタイミングではないか。専業主婦ではない、働いている人たちを呼び戻そうと思うのであれば、若い方の意見を聴くことが重要だと思う。</p>
委員	<p>未満児から保育園に行くのが当たり前の時代になってきて、現状、0123 広場の利用者は 1 歳から 2 歳程度の小さい子どもばかりになってきている。そのため、エリア分けは必要だと思うが、0123 広場として現在のスペースは全て必要であるか、一時預かりすることができるかも含めて考えることは良いかと思う。ただ、何でもかんでも放り込めばうまくいくかというと、そういういたるものでもないということを承知しておいていただきたい。</p>
市長	<p>貴重な意見に感謝する。このような議論が初めてできたことが嬉しい。これ</p>

	<p>まで市の方ではきちんとした議論を深めることができなかった。こうした議論は、今後のベルビアのプロジェクトにおいてもしっかりと実施する必要があると認識している。</p> <p>その他に意見はないか。意見がないため、議題 1 および議題 2 については以上とする。</p>
	<p>5 その他</p> <p>(1) 有識者会議と総合計画審議会の統合について</p>
	<p>=事務局が説明=</p>
市長	<p>これまで総合戦略と総合計画のある時期から並行して進めてきたが、今後は、総合計画を最上位とし、その中に総合戦略を含む形で推進していく。メンバー構成については事務方で協議する。改めてお願ひする方もいらっしゃるかと思うが、いったん総合戦略については、これで区切りとしたい。異議はないか。</p>
委員全員	<p>(異議なし)</p>
市長	<p>慎重な審議により、大変良い意見を聞くことができ、感謝する。</p> <p>茅野市は 20 数年間にわたりパートナーシップのまちづくりを進めてきた。振り返ると、当時、人々がたくさんいた。特に団塊の世代を中心となり、茅野市において多様な取組が生まれた。福祉から始まり、環境教育へと細分化・高度化していった歴史がある。しかし、細分化・高度化は良い面もあつた一方で、一般市民が関わりにくくなるという側面も生み出し、現在反省点として認識されている。そのため、我々はいま一度ごちゃまぜの会を作りたいと考えている。様々な方が様々な立場や角度からの意見交換を通じて、より良いものに集結していくと思っている。今後の審議会も、そのような場となることを期待する。</p>
委員	<p>本日が有識者会議の最終回となるため、何か振り返りや一言があれば発言してほしい。</p> <p>これから母親が働きやすい環境にするために、できれば塾の送迎などに「のらざあ」を利用できるようになると良いと思う。正社員で、18 時まで働くとなると、それから塾などに送っていくことは難しいお母さんが多い。</p>
地域創生課長	<p>「のらざあ」のお子様の利用については、夕方の時間帯は配車数が少なく、予約が成立できない状況にある。今年 10 月に車両が 2 台増え、8 台から 10 台になった。現在は、単純に既存シフトに組み入れ、運行している。今後は実績を見ながら、予約の負荷が発生しないよう設計を変更しつつ、頂いた意見のような方でも利用できるように周知していきたい。</p>
企画部長	<p>「のらざあ」の運行時間は、現在、18 時 30 分が最終受付時間で、19 時まで運行している。これは、運行事業者との調整によりこのような形になっている。また、運行事業者の働き方や人の問題もあるので、このことを踏まえ、運行事業者会議などを通じ、様々なニーズを聞き取り、ニーズに合わせた運行時間の検討を進めていきたい。</p>
委員	<p>時間というよりは、息子が小学校でバスケットをしているが、ミニバスでは「のらざあ」を利用してはいけないと言われる。そのようなところに難しさがある。当たり前に、安心して利用できるように周知してほしい。横浜など、アプリでタクシーを利用して送迎しているところもある。子どもが乗りました、降りました、という通知がくるようなことまでできると有難い。</p>

市長	そうした提言は我々にとって励みとなり、常にサービスを進化させていく必要があると認識している。より多くの利用者が利用できるよう、積極的に意見を寄せてほしい。
委員	このような場に参加し、普段接することのない素晴らしい方々と共に議論できたことは非常に刺激的で有難かった。最初に議論のあった、公共交通、特に働く母親が子どもの送迎ができるないということが、この地域の母親たちのキャリアアップを阻害しているという指摘は、まさに目から鱗が落ちる思いであった。それ以外にも多くの方々と知り合うことができ、様々な面でつながりができたことに感謝している。これがこれまでの感想である。この会議に参加できたことに心から感謝する。
委員	時代はどんどん変転している。市長や議会の方々は直接民主主義で選ばれた我々の代表である。昔は「お上が決めたことに従っていればそれで良い」という考え方があったと思うが、今は違う。我々の生活環境には課題が多く、市民がいかにそれらを自分事として捉えるかが重要であり、そのためこういった会議が始まっている。課題を共有し、皆で解決策を考えることは非常に重要である。次回からの有識者会議と審議会は統合され、より強力な組織が発足する。その中で様々な議論を進める必要がある。例えばベルビアの問題は、ただの商業施設であれば経済合理性を優先すれば良いだけであるから、議論の必要はない。しかし、公共施設として捉えた場合には簡単にはいかない。様々な意見が出る。以前市長との雑談の中で、皆で「わいわいがやがや」議論を交わすことが大事という話があったが、まさにその通りだと思う。「イノベーションはわいわいやから生まれる」という言葉もある。次回からできる組織には期待している。我々がこんな議論しているということを、新聞でも伝えていきたい。
委員	私は地球温暖化対策の仕事に関わっている。この有識者会議の中で一番決めてほしいことは、車のことである。電気自動車をどのように活用していくかということの議論を進めていってほしい。「のらざあ」も良いが、茅野市はとても空気が良く、環境が良く、交通網が整備されている、ということを真剣に考えてほしい。茅野市の未来を考える中では都市計画も考慮しながら進めて行った方が良い。先日須坂市にあるイオンモールに行ってきた。非常に広い敷地にあり、歩くのも大変だったが、このような施設も必要だと思う。都市計画の中で検討してほしい。現在の茅野市では、店舗もショッピングモールも点在している。商業施設も広い敷地の中に集約できないのだろうかと思う。子どもたちの意見を聴くことも大事である。モデルとなる都市も参考にしながら、茅野市の未来を考える機会が必要だと思う。よろしくお願いしたい。
委員	この会議で、普段知ることがなかったベルビアのコワーキングスペースなどの様々な議論を聞き、非常に驚かされている。ベルビアの空きスペースの件にも地域の金融機関として参加できればと思う。色々なご意見を伺いながら、できることがあれば協力させてほしい。
委員	私は昨年の7月に茅野市に来た。転勤するごとに色んな行政の会議に参加するが、この会議は非常に議論が活発な印象がある。他県も含めてどのような地方創生を行っているかについてアンテナを張っている。ハード面を揃えるなどものまねは多いが、うまくいっていないことが多い。まさにこういった議論で、ソフトもしっかり揃えるなど、構想が大事ということを改めて知った。まだ勉強中ではあるが、なにか役に立てればと思うので、よろしくお願いする。

委員	私の所属は 20 代、30 代が多い団体である。全国に 600 ある青年会議所では、地域を良くしよう、人口を増やそうといった様々な活動をしているが、なかなかうまくいかないと悩むところが多い。茅野市のように多くの方々と未来について話をする機会があると、よりこの地域の特性が出てくるかと思う。この地域独自の何かを考えていかなくてはいけない。
委員	資料にある楽園信州ちのに関わる数値は、移住者が増えており非常に良い傾向に見えるが、移住者の年齢の内訳を細分化してもらえると有難い。楽園信州ちのの移住体験ツアーを年 4 回実施している。令和 6 年度が 120 名、今年度もあと 1 回残っている回が満席になれば 126 名になり、ほぼ目標値を達成する。ただ、「若者に選ばれるまち」という観点で見ると、昨年度の参加者の平均年齢は 52.3 歳であった。これには子どもも含まれるため、実質的に移住を決定する権限がある人の年齢層はもう少し上である。今年度のここまで 49.9 歳で 2.4 歳若返っているが、「若者に選ばれるまち」という観点からはもう少し若者に好まれるような取組をしていく必要がある。地域創生課で懇親会を開催したり、楽園信州ちのに金融機関も会員として参加してもらい住宅ローンという面でもサポートできるように取組をしている。今後さらに若者に支持されるような取組をしていきたい。空き家の対策に取り組んだ時期もあったが、相変わらず苦戦をしている。ぜひ、都市計画課とも連携し、空き家を発掘して商品にし、移住者に住居を提供できるようにすることが使命だと思っている。ぜひ、市や他も委員からもサポートをお願いしたい。
委員	女性として茅野市で企業を経営していく中で、茅野市ほど女性起業が楽なところはないと感じている。商工会議所や銀行、そして役所の助けがある。私のコンセプトとしては、思ったことやりたいことがあれば自分で実行すればよいという考え方である。「こうしてほしい」「ああしてほしい」と市に言うことは簡単だが、そう思ったら自分でやればよいと思ってここまできた。この考えはこれからも続いていくと思うし、今日この会議でまた刺激をもらったので、次のステップに向かっていきたい。
副市長	この会議は、今後総合計画審議会に統合されるが、これまで 11 年間、誠に感謝申し上げる。11 年前、私はまちづくり戦略室の課長として総合戦略の策定を開始した。これまでにない計画を作ろうと考え、当時は 40 代の女性に多く参加してもらったり、市外の方にも参加してもらったりした。他の市町村では人口減少対策として、出産祝い金や定住奨励金のような施策が一般的である。しかし茅野市は、働く場から新しい仕組を創造することで、総合戦略を推進してきた。この取組が成果を出してきたと考えている。第 2 次総合戦略では「若者に選ばれるまち」を基本理念に掲げ、とがった計画ということで策定した。先日は「のらざあ」のシステムを利用している会社の役員が茅野市を訪れた。「のらざあ」は元々大都市向けのシステムであるが、茅野市のような地方都市で先進的に公共交通を運用していることを評価し、茅野市を核として全国にこの取組を発信したいということであった。 「のらざあ」は単なる移動手段ではなく、「人は移動の権利と自由を持つ」というまちづくりの思想を基盤として取組を進めている。まだまだ伸びしろがある。皆様の意見を聞きながら、全国でも類を見ない先進的な取組を実行していきたい。茅野市は宣伝下手なので市民に知られていない部分も多いが、市外からは高い評価を得ている。この点をしっかりと進めていきたい。茅野市の職員も、総合戦略における 10 年間の取組を通じて、新しいこ

地域創生政策監

とに挑戦する姿勢が身についた。これは今後の茅野市のまちづくりにとつて非常に重要である。一方で、0123 広場の議論にもあったが、これまでのまちづくりとこれからのまちづくりをどのように調和させていくか、ソフトにつなげていくことが極めて大切であり、それが茅野市の持続可能なまちづくりにつながるだろう。今後も委員の皆様からの指摘は大変ありがたく、引き続きご協力をお願いしたい。

委員の皆様には心から感謝申し上げる。

市長

人口減少という問題は 40 年前から言われていたにもかかわらず、この国は何をやっていたのか腹立たしく感じている。今、人口減少対策は国を挙げて考えなければいけないが、いまだに方向性が見えてこない。成長戦略と言っているが、決め手がない。地方はどんどんおいていかれるので、対症療法を行っている。日本はすでに貿易赤字であるのに、こんなにも豊かな生活を享受しているというちぐはぐな状態である。本当にもっと頑張らなくてはいけないと思う。小さい頃は、鼻をたらして、家の周りにはどぶが臭うようなところだけれども、夕方になると子どもたちで銭湯行って一緒にはしゃいでいるような、目的が定まっていると、シンプルにみんなで切磋琢磨しながら生きてきた。しかしながら、やはり日本人は黙ったまま阿吽の呼吸で進めたり、あまり言わないことが多い。このため、人口減という問題が分かっていながらも、対策してこなかったのだろうと思う。若い頃アメリカに行った際に、コンピューターをアメリカ人が使っているのを初めて見たが、貧しい人も豊かな人もみんなパソコンを叩き始めていた。日本では、パソコンが入った時は、パソコンは特別な人しか使ってはいけなくて、パソコンができると素晴らしい能力のように思っていたが、アメリカはやはり相互理解の国であると感じた。テクニックは低くともみんなが使える国であるから、多民族で、いまだに人口は減っていない。消費がどんどん伸びて、経済成長している。日本人はお利口で真面目にやっているため、素晴らしい企業はどんどん増えているが、企業間が連携しておらず部分最適に留まっている。だからこそ、行政は全体最適を目指すということを思いながら、日々仕事に取り組んでいる。皆さんに指摘いただいた 0123 広場の使い方のことも、相互理解があれば決め手が出てくる可能性がある。若いお母さんたちは、今、公園デビューの場所を探しているのか、一時預かりの場所を探しているのか。高齢化社会では、投票し政策を決める人も高齢者になっているが、一番重要なことは相互理解を進める、つまり若いお母さんの話しを聞くことである。代弁することも大切であるが、投票にも行ってもらう、若い人の参加を求めることが遠回りのようであって一番近い道だと本日の議論を聴いていて思った。

人口減少下において、この時代を乗り越える正解を知る者は誰もいない。だからこそ、皆で意見を出し合い、議論を重ねることが非常に重要である。これからも茅野市のまちづくりに対し、様々な形でご尽力いただくことと思うが、今までの皆様のご努力に感謝し、本日の会議を閉会とする。ありがとうございました。

6 閉会（20:15）

以上